

子どもの健康と病気の予防③⑩

小宅医院 小宅民子

－ 冬に流行しやすいウイルス性胃腸炎 －

ウイルス性胃腸炎は冬に流行し、主に乳幼児が感染する胃腸炎です。主な症状は嘔吐、下痢です。冬の主な原因ウイルスは、ノロウイルスとロタウイルスです。

ノロウイルスは一年中発生しますが、特に冬に流行のピークを迎えます。子どもから老人まで感染します。ロタウイルスは冬から春に流行し、生後6ヶ月から2歳までの乳幼児に多く感染します。

主な感染経路は汚染された手や食べ物を通して口から感染する経口感染、嘔吐物や排泄物が乾燥して空気中に舞い上がり、それを吸い込むことで感染する飛沫感染、汚染されたドアノブや手すりを介した接触感染です。

潜伏期間は約2～3日で、吐き気・嘔吐・下痢・腹痛・発熱などの症状があらわれます。下痢や嘔吐が続くと脱水やけいれんを起こすことがあります。

特効薬はなく、水分補給、消化の良い食事や安静が重要になります。

家族に感染している人がいるときは、調理前、食事前、トイレ後の手洗いをし、吐物や排泄物を処理するとき、使い捨て手袋やマスクを使用し、

乾燥しないうちに処理し、消毒します。ノロウイルスはアルコール消毒が無効です。消毒は熱湯で1分以上、次亜塩素酸ナトリウムで洗浄します。多くの人が触れるドアノブや手すりなどはこまめに消毒します。

ロタウイルスには予防ワクチンがあります。シロップ状の飲むワクチンで、生後6週から接種できます。

嘔吐や下痢がおさまっても、ウイルスは便にしばらく混じるので、手洗いや消毒は1か月程度続けましょう。

「冬に流行しやすいウイルス性胃腸炎」 5つのポイント

- ① 主な原因は、ノロウイルスとロタウイルス
- ② 主な感染経路は経口感染、飛沫感染、接触感染
- ③ 症状は、吐き気・嘔吐・下痢・腹痛・発熱など
- ④ 特効薬はなく、水分補給、消化の良い食事や安静が重要
- ⑤ ロタウイルスには予防ワクチンが有効



津久見中央病院からのお知らせ ～診療部DA課のご紹介～

診療部DA課は医師事務作業補助者が所属し、8年前に設けられた課です。

現在7名が勤務しており、外来・病棟・医局に配属されています。

私たちの役割は、医師が診療に集中できるように、診療の補助や事務手続きをサポートすることです。そのために医師とのやりとりを中心に、看護師をはじめとした病院の多職種と協働しながら業務を行っています。

医療文書作成代行・・・紹介状や診断書の作成補助、管理など
診療補助・・・診療の同席、検査結果の準備、他院受診準備など
医療記録(カルテ)入力の代行・・・次回予約や検査のオーダーなど
診療情報の管理・整理・・・検査結果や診療情報提供書の整理、手術データ登録など
行政への対応・・・介護書類の作成など
患者対応の補助・・・診察室への案内や電話応対、複数診療科受診時の時間調整など



医師事務作業補助者は、病院の裏方として「医師の事務を助ける専門スタッフ」です。

医師が診療に集中できるよう、診療以外の事務作業を支えることで、患者さんにより良い医療をお届けする大切な役割を担っています。病院へお越しの際はお気軽に「薄桃色の制服」の私たちにお声掛けください。